Q017. 放課後等デイサービスの役割って？

A. 3つの役割があるとされているわ。

子どもの最善の利益の保証

まずは、子どもの最善の利益と健全な育成を図る、ということが言われているの。

支援を必要とする障がいのある子どもに対して、学校や家とは違う時間の使いかた、そこだけの空間、人とのかかわりやいろいろな体験なんかを通して、それぞれの子どもの状況に合わせた発達支援を行うの。
そしてそれは、支援を受ける障がいのある子どもが、いちばんいい心身の状態になるようにと工夫していかなくてはいけないのよ。

授業後や休業日の、学校（幼稚園と大学を除いた）に就学している障がいのある子どもたちの、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を給与すること、となってます。
ただ預かってくれるだけじゃなくて、少しずつでもなにかが出来るようになるように、プログラムを考えて実施してくれてるはずなのね。

共生社会の実現に向けた後方支援

放課後等デイサービスが持っている専門的な知識や経験・技術を使って一般的な子育て施策を「後方支援」する役割があります。

必要に応じて放課後児童クラブや児童館との連携を取りながらの事業運営が求められていて、子どもの地域社会への参加・包容（インクルージョン）を進めよう、とあるわ。
そのため他の子どもも含めた集団の中での育ちをできるだけ保証しよう、とされているの。

成長して行くにしたがって、地域社会の中で生活していくことになるわ。
そのときに困ることが少なくなるように、いろいろなプログラムを通して多くの経験を積んでいくバックアップをしよう、ということなの。
地域で生活するうえで必要になる人との関わりかたを、経験していって欲しいの。

さらに、一般的な子育て支援施策を利用している障がいのある子どもに対しても、保育所訪問支援を積極的に実施するなどの、地域の障害児支援の専門機関という役割もあるのよ。

保護者支援

子どもだけではなく、その保護者に対する支援も役割のひとつなの。
保護者が障がいのある子どもを育てることを社会的に支援するのも大切な役割なのね。

たとえば、子どもを育てているときの悩みの相談を受けたり、家庭でできる療育や取り組みなど、子どもの育ちを支える力を保護者がつけられるように支援するペアレント・トレーニング。
レスパイトケアのところでも言っていたけど、保護者の時間を保証するために、ケアを一時的に代行する、という支援などがそれに当たるのね。

これ等の支援によって保護者が子供に向き合うゆとりと自信を思い出してくれたりすると、子どもの発達にとっても、いい影響が出てくるんじゃないのかな。

《MENU》

《保護者や学校とは？　　子どもの権利条約ってなに？》

放課後等デイサービス支援事業
Support Project Of
Day-service for After-school
At Kyoto

2021-01-04 掲載